



プレスリリース

平成28年4月28日

国立研究開発法人

宇宙航空研究開発機構

東北大学

北海道大学

フィリピン科学技術省

フィリピン大学ディリマン校

フィリピン共和国 国産開発第1号となる「DIWATA-1」の 国際宇宙ステーション・「きぼう」からの放出成功 (JAXA初となる50kg級超小型衛星の放出成功)

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)、東北大学、北海道大学、フィリピン科学技術省(DOST)、フィリピン大学ディリマン校は、フィリピン共和国の第1号超小型衛星「DIWATA-1」の「きぼう」からの放出に成功しました。50kg級超小型衛星の「きぼう」からの放出はJAXAとして初めてとなります。

「DIWATA-1」は、フィリピン科学技術省(DOST)、フィリピン大学ディリマン校、東北大学、北海道大学が共同開発した50kg級の超小型衛星で、JAXAが提供する打ち上げ機会を利用し、平成28年3月23日(日本時間)に米国フロリダ州より打ち上げられ、4月27日20時45分頃、「きぼう」から放出しました。

フィリピンも日本も海に囲まれた国で、人工衛星は国の発展に欠かせないツールです。フィリピン初の国産衛星である「DIWATA-1」は、フィリピン科学技術省から派遣された若手エンジニア達を中心となり、東北大学・北海道大学がその開発・製造を、JAXAは、打ち上げから軌道への放出にいたるまでの作業を担当しました。このようなフィリピンの宇宙開発の歴史に刻まれる記念すべきミッションの成功に4者が連携・貢献し、日本とフィリピンの緊密な協力と宇宙の平和協力を実現しました。

また、今回初めて50kg級の超小型衛星放出を成功させたことによって、JAXAは、CubeSatを対象とした放出機構に加えて、衛星放出能力を増強することができました。今後、CubeSatを対象とした衛星放出機構も、同時放出数を3倍増に量的増強を進める計画であり、DIWATA-1のようにアジア地域等、海外の機関とJAXA及び日本国内大学との連携を通じた超小型衛星事業の海外での利用拡大が期待されます。

※DIWATA-1について

DIWATA-1の開発期間は約1年、開発資金は全てフィリピン共和国が負担しています。同衛星には、魚眼カメラ、地上解像度3mの望遠鏡など、倍率の異なる4種類の撮像装置が搭載されており、台風や集中豪雨等の気象災害の監視、農業、漁業、森林、環境のモニターなど、フィリピン共和国での多様な社会課題の解決のためのリモートセンシング情報の提供に活用される予定です。特に、液晶スペクトルカメラは北海道大学・東北大学が2014年に打ち上げた「雷神2衛星」に搭載されたカメラの改良型として、大型衛星に搭載されているカメラに劣らない590バンドの帯域での撮像が可能であり、低コストで高精度な次世代の宇宙利用を拓くものと期待されます。

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 広報部

〒101-8008 東京都千代田区神田駿河台 4-6 御茶ノ水ソラシティ B1 Tel. 050-3362-4374 Fax. 03-3258-5051

※DIWATA-1の打上げについて

今回のDIWATA-1の打ち上げでは、フィリピン共和国からの早期の放出実施要請を受け、JAXAがもつ日本の宇宙ステーション補給機「こうのとり」によるISSへの輸送機会と米国の輸送機会を国際調整し、3月23日の「シグナス宇宙船」によるISSへの打ち上げ機会に変更しました。

※CubeSatについて

CubeSatとは、縦10cm×横10cm×高さ10cmの立方体を1Uとした衛星で、高さのサイズにより、2U(高さ20cm)、3U(高さ30cm)となる。JAXAのCubeSatサイズの超小型衛星放出は、CubeSatを6つ(6U)同時放出できる能力を持つ。

●「きぼう」からの超小型衛星放出に関するお問い合わせ先

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 広報部 報道・メディア課

Tel: 050-3362-4374 Fax: 03-3258-5051

●プロジェクトの概要および搭載機器開発・データ利用に関する問い合わせ先

北海道大学 大学院理学研究院 教授 高橋幸弘

Tel: 011-706-9244 E-mail: smc@cris.hokudai.ac.jp

●DIWATA-1衛星本体の開発・運用に関する問い合わせ先

東北大学 大学院工学研究科 教授 吉田和哉

Tel: 022-795-6992 E-mail: yoshida@astro.mech.tohoku.ac.jp



写真1 DIWATA-1の「きぼう」からの放出



写真2 DIWATA-1放出を見学する関係者